

今年日本が提唱した国連の「ボランティア国際年」です。また郵政の国際ボランティア貯金が発足して十年になりました。私は二月上旬、国際ボランティア貯金の配分を受けたいで活動している三つのNGO（非政府組織）を訪ね、日本の市民の善意が、確実に見えることを見ました。次に岡山でボランティアを論じる意味ですが、九五年のサハリン大地震、翌年の中国雲南省大地震、二月一日にはインド西部地震救援へと、岡山空港から三回もチャーター機が、直接被災地へと飛んでいます。津曲 インド西部大地震の際には、医療チームをすぐ派遣し、岡山空港から多くの皆さまからお預かりした三十七もの荷物を乗せたチャーター機が被災地へ飛び立ちました。まずこのプロジェクトを無事に終えた報告をさせていただきたく、阪神淡路大震災で発揮された岡山の「困った時はお互いさま」という心が今回も発揮されたのです。

木村 吉成氏



きむら・よしなり
1959年生まれ。明誠学院高ボランティア推進委員として、高齢者施設などで活動。99年のベトナム・ボランティア研修に参加。

実体験は生きた教材

校の中に入りましたが、真の先生はいいです。教室に動ける場所がある。発展途上国でも日本でも同じなんだ。そう思いました。ボランティアは自分のためにやるのです。自分の成長のためにやるのです。自分が面白いからやるのです。それが他人が喜んでくださる。しかし、してあげるといのは往々にして相手の自立を損なうことがあります。海外で活動する若い仲間、一相手の自立を援助するためには何かがあるか、よく考えなさい。あんなの援助が相手の自立を妨げたらいいけません」と話しています。

自立妨げないよう

津曲 インド西部大地震の際には、医療チームをすぐ派遣し、岡山空港から多くの皆さまからお預かりした三十七もの荷物を乗せたチャーター機が被災地へ飛び立ちました。まずこのプロジェクトを無事に終えた報告をさせていただきたく、阪神淡路大震災で発揮された岡山の「困った時はお互いさま」という心が今回も発揮されたのです。

津曲 兼司氏



つまがり・けんじ
1956年生まれ。秋田大医学部卒。後にAMDAに入会。ミャンマー、ルワンダ難民、阪神大震災など数多くの救援医療活動に携わる。

明誠学院高校は、全国でも初めて普通科に「国際ボランティアコース」を設けられました。木村 本校は地域住民

の方々を中心とする募金活動でできた学校です。その際に自分の目で見て、耳で聞かず積み上げていき、主旨を生かして「地域の方々が肌で感じる貴重な体験。前年、私たちの先輩が、お世話させていただいた中、ともに学ばせていただき、生徒もともに学ばせたい」という考えが、基になり、学校にボランティア教育を取り入れまし。森 九九年の十二月二十日から二十七日までの八日、ベトナムへボランティアを育てたいという目標から九七年に「国際ボランティアコース」を創設しました。毎週二時間「ボランティア実習」という授業が「温かい家」とオタオタのうち、性的虐待などを受けます。地域にある養護集会所などでした。ピン・エ

森 実菜江さん



もり・みなえ 1984年生まれ。明誠学院国際ボランティアコース在籍。週二時間施設で実習をしている。99年のベトナム・ボランティア研修に参加。

ベトナムで甘き痛感

老人ホームやケアセンターなどに出席し、体験を通じてボランティアの心を学ばせていただいています。九井戸までくみに行かなくては、九九年度の二度、ベトナムへボランティア研修にメント練りは大変でした。のかと思っていました。でも、とてもそのよきな事実があったと思えないほど明かると、彼らを見ていたと、私たちがも前向きに生きているのだと考えさせられました。研修を終え自分が恵まれていることに気が付き、今までの自分がどれだけ甘い考えを持っていたか、どれだけ楽をしたか、どれか感動しました。消極的だった私に「何かできることをしたい」という積極的な気持ちが生まれました。

姉添 教育って大切ななあとこの感じがします。十年、二十年後を考えると、社会を担っていくのは子どもたちなんです。開発途上国の中の、非常に不幸な状況にある子どもたちをいかにして助けるかということだと思います。森さんも言っていましたように、今、日本がいろいろ問題があるの、豊かき代償なのかな、という気がしてならない面があります。私は終戦直後の貧しい日本生まれです。そういう時代に戻りたくはないが、お互いに助け合うとか、連帯という気持ちがあった。その気持ちだけは取り返したい、そんな気がするので。

